

## 1-4 中国思想中国哲学

### 研究・教育活動の概要と特色

中国思想中国哲学専攻分野における研究活動は、中国の伝統文化を政治、経済、思想、宗教、歴史、文学、科学などが緊密に関係し合う有機的統合体として捉えるという認識を前提としつつ、その思想的宗教的側面を構成する諸現象の歴史的位置や普遍的意味を探究するものである。またその教育活動は、狭い意味においては、如上の研究活動を遂行するうえでの確乎とした学問的基盤を築くことを目的とし、広い意味では、中国の伝統文化に対する知的関心ないし人文学的教養を培うことをめざしつつ、いずれの場合も中国古典文（いわゆる漢文）に対する読解力の向上、および中国思想に関する歴史的事実および理論的特色の修得のための訓練を、その中心に据えてすすめられる。

本専攻分野の前身である中国哲学講座の初代教授武内義雄ならびに第二代教授金谷治は、文献実証的思想史学的手法により、中国の戦国時代から秦漢期にいたる諸子百家の思想、とりわけ儒道両思想の展開を解明し、また第三代教授中嶋隆藏は、武内・金谷の手法を洗練させつつ、その研究対象を中国中世における儒仏道三教へと拡げ、諸教の葛藤や融合の実態をあきらかにした。2015年度現在の教員は、教授三浦秀一、准教授齋藤智寛の2名であり、三浦は、南宋後半から清代中期にいたる時期の知識人の思想を三教交渉の視点から分析するとともに明代の科挙に関わる諸事象を思想史のおよび社会史的に考察し、齋藤は、唐・五代の禅思想を中心とした中国中世宗教思想の解明を、敦煌出土の文献などをも駆使しておこなっている。なおこの報告書の調査期間において助教の職務に在った者としては、元朝の首都である大都の都市的性格を制度史もしくは社会史的観点から検討する渡辺健哉（2007年4月から2010年3月まで）と、漢代から六朝期にいたる老子解釈の歴史を探究する高橋睦美（2012年4月から2015年3月まで）の2名がおり、本年4月からは、清代学術史を研究する尾崎順一郎が教育支援者（研究助手）に就いている。以上の5名は、それぞれにその研究分野を異にするものの、いずれも中国学の伝統的手法に依拠しつつ研究をおこなう点では、その認識を共通させる。

このように、本専攻分野における研究・教育活動の特色は、歴任教員に一貫する思想史学的方法と、関係各人によって相異なる研究関心とから察知させられるとおり、中国古典文・現代文の読解という基礎的学力の育成・錬磨を大前提としつつも、研究に従事する者としての自主性を最大限に尊重する点に存する。学生・院生の総数は、研究室の創設以来、20名以下の数で安定しており、上記のとおりの方針のもと、少人数教育の学習環境下で研鑽を積んだ卒業生が、現在、斯界において幅広く活躍している。

## I 組織

### 1 教員数 (2015年5月20日現在)

教授：1

准教授：1

講師：0

助教：0

教授：三浦秀一

准教授：齋藤智寛

### 2 在学生数 (2015年5月20日現在)

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
4	0	2	3	0

### 3 修了生・卒業生数 (2010～2014年度)

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
10	2	2	0
11	2	2	1
12	1	0	0
13	1	0	1
14	1	1	1
計	7	5	3

## II 過去5年間の組織としての研究・教育活動 (2010～2014年度)

### 1 博士学位授与

#### 1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
10	0	0	0
11	1	0	1
12	0	1	1
13	0	0	0
14	0	0	0
計	1	1	2

## 1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

高橋睦美、2011年度、『老子指帰』思想研究－漢魏の間における有無の言説とその展開－

審査委員：教授・三浦秀一（主査）、教授・花登正宏、教授・佐竹保子、  
教授・川合 安、准教授・齋藤智寛

馬場英雄、2012年度、嵇康の思想

審査委員：教授・三浦秀一（主査）、教授・佐竹保子、准教授・齋藤智寛

## 2 大学院生等による論文発表

### 2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
10	1	0	0	0	1
11	1	0	0	0	1
12	1	0	0	0	1
13	0	0	0	0	0
14	1	0	0	0	1
15	1	0	0	0	1
計	5	0	0	0	5

\*2015年度は5月20日までの数字。ただし以後の掲載が決定しているものも含む。

### 2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
10	0	3	2	0	5
11	1	3	2	0	6
12	1	2	2	0	5
13	1	1	1	0	3
14	0	3	1	0	4
15	0	2	0	0	2
計	3	14	8	0	25

\*2015年度は5月20日までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

### 2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

#### (1) 論文

- 高橋睦美、「『老子指帰』思想再考—後漢期の生成論との比較から—」、『集刊東洋学』（中国文史哲研究会）、第104号、2010年10月
- 尾崎順一郎、「焦循の「一貫」解をめぐる」、『日本中国学会報』（日本中国学会）、第63集、2011年10月
- 尾崎順一郎、「程廷祚の後半生における学問」、『集刊東洋学』、第111号、2014年7月
- 豊島ゆう子、「黄宗羲の思想—劉宗周思想の受容から「自得」の重視へ—」、『集刊東洋学』、第108号、2013年1月
- 豊島ゆう子、「黄宗羲の詩文観—「性情」重視と模倣批判の論理—」、『集刊東洋学』、第113号、2015年7月（掲載決定）

## （2）口頭発表

- 高橋睦美、「有無の諸相—生成論における道の記述」、第59回東北中国学会大会、2010年5月30日
- 高橋睦美、「漢代より魏に至る『老子』解釈の諸相と有無の論」、第165回中哲読書会（東北大学）、2010年6月26日
- 尾崎順一郎、「程瑤田の学問観について」、東北中国学会第60回大会、2011年5月29日
- 尾崎順一郎、「皖派成立史攷」、応用科挙史学研究会第10回研究集会、2012年2月14日
- 尾崎順一郎、「江南地域における戴震経学普及の背景」、第171回中哲読書会（東北大学）、2012年7月21日
- 尾崎順一郎、「清代乾隆年間における江南士人の経学理念」、応用科挙史学研究会第12回研究集会、2013年1月12日（福岡市）
- 尾崎順一郎、「袁枚の学問観について」、第62回東北中国学会大会、2013年5月26日（秋田大学）
- 尾崎順一郎、「「清朝考証学の方法」試論—研究史の整理と課題」、「考証学・言語の学、そして近代知性—近代的学問の「基体」としての漢学の学問方法」研究会、2013年6月23日（国土舘大学）
- 尾崎順一郎、「袁枚の考拠学批判と「性霊」説」、第65回日本中国学会大会、2013年10月13日（秋田大学）
- 尾崎順一郎、「恵棟『古文尚書攷』と程廷祚『晩書訂疑』における考証」、「考証学・言語の学、そして近代知性—近代的学問の「基体」としての漢学の学

- 問方法」研究会、2014年4月12日（国士舘大学）
- 尾崎順一郎、「惠棟・江聲・王鳴盛の尚書学について」、科研費基盤研究(C)「考証学・言語の学、そして近代知性 - 近代的学問の「基体」としての漢学の学問方法」研究会、2014年9月28日（東京大学東洋文化研究所）
- 尾崎順一郎、「程瑤田の学問とその評価」、応用科挙史学研究会第14回研究集会、2015年3月18日（東北大学文学研究科）
- 渡邊秀一、「蘇軾・蘇轍における「道」について」、東北シナ学会二月例会、2011年2月16日
- 宣芝秀、「伊藤仁斎の「忠恕」再考」、第166回中哲読書会（東北大学）、2010年7月23日
- 宣芝秀、「伊藤仁斎の人間観について」、東北シナ学会二月例会、2011年2月16日
- 金子由佳、「『悟真編』とその注釈者翁葆光の思想」、第168回中哲読書会（東北大学）、2011年9月30日
- 金子由佳、「翁葆光の『悟真編』解釈とその周辺」、東北シナ学会二月例会、2012年2月22日
- 豊島ゆう子、「黄宗羲の思想－劉宗周理解から『明儒学案』編纂の立場へ」、第167回中哲読書会（東北大学）、2011年8月12日
- 豊島ゆう子、「黄宗羲の思想－「自得」の追究と『明儒学案』の立場」、東北シナ学会二月例会、2012年2月22日
- 豊島ゆう子、「康熙前半における黄宗羲の思想」、第61回東北中国学会大会、2012年5月27日
- 豊島ゆう子、「論黄宗羲の思想－從劉宗周思想的接受到自得重視」、多維視野下の浙東文化學術研討会、2013年12月14日（中国寧波市・寧波大学）
- 豊島ゆう子、「黄宗羲の詩文観と科挙論」、応用科挙史学研究会第14回研究集会、2015年3月18日（東北大学文学研究科）
- 劉 曉春、「道教と呉筠」、第3届華人學術交流会、2013年2月9日（東北大学片平キャンパス）
- 劉 曉春、「呉筠「玄綱論」上篇について」、第64回東北中国学会大会、2015年5月31日（仙台市・岩松旅館）
- 祝 釗、「『祖堂集』における「亭前柏樹子」について」、第64回東北中国学会大会、2015年5月31日（仙台市・岩松旅館）

### 3 大学院生・学部生等の受賞状況

なし

### 4 日本学術振興会研究員採択状況

豊島ゆう子、平成 25 年度日本学術振興会特別研究員 DC2、採用

### 5 留学・留学生受け入れ

#### 5-1 大学院生・学部学生等の留学数

大学院生 1 名（2008 年 9 月から 2010 年 7 月まで、中国・復旦大学）

学部学生 1 名（2012 年 9 月から 2013 年 6 月まで、台湾・国立中山大学）

大学院生 1 名（2013 年 9 月から 2014 年 8 月まで、中国・復旦大学）

#### 5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
10	2	0	2
11	0	1	1
12	2	1	3
13	0	2	2
14	1	2	3
15	0	0	0
計	5	6	11

### 6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
10	0	0	0
11	0	0	0
12	0	0	0
13	0	0	0
14	0	0	0
15	0	0	0
計	0	0	0

### 7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

#### 7-1 専攻分野出身の研究者

高橋睦美、東北大学大学院文学研究科助教、2012 年度

## 7-2 専攻分野出身の高度職業人

なし

## 8 客員研究員の受け入れ状況

二松学舎大学教授・田中正樹 2011年4月1日～2012年3月31日

## 9 外国人研究者の受け入れ状況

東南大学（中国南京市）教授・許建良 2012年4月1日～2012年9月30日

## 10 刊行物

『集刊東洋学』（定期刊行物：東洋史・中国文学研究室との共同による中国文史哲研究会、年2回刊行）

## 11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2010年度：

（研究集会）応用科挙史学研究会（第7回）、2010年9月24日

（研究集会）応用科挙史学研究会（第8回）、2010年9月25日

（国際学術講演会）「地域性と時代性—数年来の明清思想研究—」、

2010年10月1日

2011年度：

（ワークショップ）応用科挙史学研究会（第4回）、2011年8月4日

（ワークショップ）応用科挙史学研究会（第5回）、2011年8月11日

（研究集会）応用科挙史学研究会（第9回）、2012年2月13日

（研究集会）応用科挙史学研究会（第10回）、2012年2月14日

（講演会）SENDAI 漢籍 SEMINAR「東北大学における漢学」、2012年3月9日（京都大学人文科学研究所との共催）

2012年度：

（研究集会）応用科挙史学研究会（第11回）、2012年9月18日

（研究集会）応用科挙史学研究会（第12回）、2013年1月12日

（研究集会）応用科挙史学研究会（第13回）、2013年3月29日

2013年度：なし

2014年度：

(研究集会) 応用科挙史学研究会 (第 14 回)、2015 年 3 月 18 日

## 1 2 専攻分野主催の研究会等活動状況

2010 年度 :

第 165 回中哲読書会 (2010 年 6 月 26 日)

高橋睦美 : 漢代より魏に至る『老子』解釈の諸相と有無の論

第 166 回中哲読書会 (2010 年 7 月 23 日)

宣芝秀 : 伊藤仁斎の「忠恕」論再考

国際学術講演会 (2010 年 10 月 1 日)

地域性と時代性—数年来の明清思想研究— (講師 : 銭明)

第 167 回中哲読書会 (2010 年 11 月 6 日)

中島彰宏 : 『天主実義』における中西問答について—西士利瑪竇の立場を中心—

佐藤里奈 : 戴震の思想—孟子字義疏証における欲望と秩序—

2011 年度 :

第 168 回中哲読書会 (2011 年 8 月 12 日)

豊島ゆう子 : 黄宗羲の思想—劉宗周理解から『明儒学案』編纂の立場へ—

第 169 回中哲読書会 (2011 年 9 月 30 日)

金子由佳 : 『悟真編』とその注釈者翁葆光の思想

第 170 回中哲読書会 (2012 年 3 月 24 日)

田中正樹 : 蘇軾と『論語』

2012 年度 :

第 171 回中哲読書会 (2012 年 7 月 21 日)

高橋睦美 : 唐玄宗御注における「沖和」

尾崎順一郎 : 江南地域における戴震経学普及の背景

第 172 回中哲読書会 (2012 年 9 月 21 日)

許建良 : 日本の中国思想研究における『老子』と法家の関連性について

第 173 回中哲読書会 (2012 年 10 月 12 日)

浅利真行 : 程明道の万物一体の仁について

2013 年度 :

第 174 回中哲読書会 (2013 年 9 月 28 日)

高橋睦美 : 六朝期における道の体得と身体観

第 175 回中哲読書会 (2013 年 11 月 29 日)

堤薫：董仲舒の思想—天と君主の関係—

第 176 回中哲読書会（2013 年 12 月 19 日）

高橋睦美：『唐玄宗御注道德真経』および『唐玄宗御製道德真経疏』の思想  
について

2014 年度：

第 177 回中哲読書会（2014 年 7 月 15 日）

祝釗：「庭前柏樹子」問答について

第 178 回中哲読書会（2014 年 9 月 26 日）

豊島ゆう子：黄宗羲の詩文観—錢謙益の影響から独自の詩文実践へ

高橋睦美：唐玄宗御注・御疏における「重玄」要素

第 179 回中哲読書会（2014 年 11 月 7 日）

新目知博：章炳麟『齊物論釈』の「天籟」寓話について

### 1 3 組織としての研究・教育活動に関する過去 5 年間の自己点検と評価

本専攻分野における組織としての研究・教育活動は、研究室の構成員とりわけ大学院生各自が遂行しようとする研究の支援を第一の目的におこなわれる。その形態は、（1）本専攻分野単独のもの、（2）中国の伝統文化に対する上記「概要と特色」の項に示した捉え方から必然的に導かれるとおり、文学研究科における中国学の隣接研究室である中国語学中国文学および東洋史学の二専攻分野との共同によるものに分けられる。その前者（1）に関しては、全国的もしくは国際的な学会での研究発表や学術誌への論文投稿、およびそれを前提とした、研究室主催の論文構想発表会を中心として、諸外国から来訪した研究者と留学生との交流をも含み、後者（2）に関しては、学術雑誌である『集刊東洋学』の刊行①、およびそれに関連する諸行事としての投稿論文の査読、雑誌の合評会などや、三専攻分野の教員等を代表とする科研費関連の研究集会②、国内外の研究者を招いての学術講演会③がある。以下、過去 5 年間の活動を（1）・（2）それぞれについて記しつつ、点検と評価をあわせておこなう。

（1）評価対象である 5 年間において、国外における学会発表が 1 回、国内の全国学会である日本中国学会での発表数が 1 回、東北中国学会での発表数が 4 回、である。大学院生の数から判断すれば相応の発表回数だと考えるが、それでも、いわゆる他流試合の場を増やす必要がある。応用科挙史学研究会による研究集会は、そうしたなかでの数少ない機会だと考えられる。この研究集会は、教授三浦が中心となって組織した国際的な研究会であり、毎回ではないが研究集会には中国・台湾の研究者を招聘している。

論文の公刊に関しては、『集刊東洋学』2010 年 5 月発行の第 103 号から 2015 年 1 月

発行の第 112 号までの 9 冊の雑誌において、中国思想分野の「論説」は 13 本「研究ノート」「雑纂」「書評」は 6 本である。そのなかで本専攻分野の大学院生の論文は 2 本である。院生の投稿数が少ない理由に関しては、中国への長期留学や、博士論文の執筆など、個別論文の作成までには手が回らないといった事情がある。とはいえ、自身の研究成果を発表する上で、もう少し貪欲な姿勢が見られても良いはずであり、そうした方向への指導も必要であろう。ただし、そうしたなかでも 2011 年度刊行の『日本中国学会報』に院生の論考が掲載されたことは、その他の構成員にとって大いに刺戟になっている。

一方、海外からの留学生との交流は、近年、好調である。2009 年度後半から（中国）清華大学日本語学科および台湾大学日本語学科の学部学生が、特別聴講学生として研究室に配属になった。その前者は半年、後者は 1 年間（2010 年度前半まで）、研究室の構成員と日常的な交流を持ち、学部学生に対しては異文化交流のえがたい経験となり、大学院生に対しては、語学的経験を積む良い機会となった。2011 年度後半からは、中国政府派遣の留学生が所属し、その学生は、2012 年 4 月、博士後期課程の院生となった。また、同じく 4 月からは、ノボシビリスク大学の学生が学部特別聴講生として、また北陸大学出身の中国人学生が学部研究生として、さらに 2014 年後期からは中国同済大学の学部学生が、それぞれ研究室で 1 年間すごした。2010 年 7 月より研究室のウェブサイトが運用を開始したことも関連事項として附記しておく。

(2) ①『集刊東洋学』の編輯に関しては、大学院生が査読を含めて、編輯に関するすべての業務をおこなっており、そうした仕事もまたかれらの将来において大いに役立つであろう。近年は会計業務の合理化をすすめており、大学院生の貢献度は高い。②2006 年夏に発足した応用科学史学研究会による研究集会およびワークショップがそれに相当する。各会は 10~20 名の専門家が参加し熱心な討議が交わされた。③中国、台湾、シンガポールの中国学研究者（劉海峰、鄧洪波、李兵、魏月萍、吳震、陳雯怡、錢明、鄭吉雄、呂妙芬の各氏）、あるいは北海道大学・名古屋大学の清代学術史の専門家（水上雅晴、吉田純両氏）を招いて講演会等を開催した。

次ぎに教育活動であるが、そのなかで学部教育は、基礎的学力を身につけ、さらにそれを発展させて卒業論文の執筆へと進めるようカリキュラムを組み、また研究室独自の勉強会による補完のもと、学習効果の向上をはかっている。学部 2 年次生向けの基礎講読や概論の授業には、漢文の読解力を必須とする日本学やインド学等を専修する学生や、教員免許（国語）取得の必要から履修している教育学部等の学生も受講しており、文学部の他専修と同様、本専修もまた教育活動をとおして文系諸学部の学部生教育に貢献し

ている。なお、2010 年度からは、学部生向けの新しい授業として演習の時間を創設した。基礎講読での学習を終えた学生に対し、中国古典文の読解能力をさらに高めることを意図したものである。

大学院教育に関しては、博士論文の作成を目標とした論文作成指導として、各自の研究能力を向上させる演習の時間を設け、またそこでの不足を補うべく研究室主催の研究会を定期的にひらき、教員による個別指導もおこなっている。その成果として、2011 年度、ひとりの大学院生が博士の学位を取得した。そもそも大学院の後期 3 年を経てただちに博士学位請求論文を提出できる者がいないことは、本専攻分野の学問上の性格に関係する事柄でもあり、一概に否定的な評価は下せないのだが、6 年間の在学可能期間中に多くの大学院生が学位を取得できるよう、今後も可能な限り指導に努めたい。

### Ⅲ 教員の研究活動（2010 年度～2015 年 5 月 20 日）

#### 1 教員による論文発表等

##### 1-1 論文

三浦秀一「明代科挙「性学策」史稿」（日本語版）、『集刊東洋学』第 103 号、中国文史哲研究会、pp.41-61、2010 年 6 月

三浦秀一「王門朱得之的師説理解及其《莊子》注」、『台日学者論經典詮釈中的語文分析』、鄭吉雄編、台湾学生書局、pp.381-417、2010 年 8 月

三浦秀一「郷試考官林光与明代中期的副榜合格者」、『科挙与科挙文献国際學術研討会』、天一閣博物館編、上海書店出版社、pp.198-213、2011 年 7 月

三浦秀一「副榜挙人と進士教職－明代における地方学官と郷試考官の一特徴－」、『集刊東洋学』第 106 号、中国文史哲研究会、pp.41-60、2011 年 10 月

三浦秀一「王門朱得之の師説理解とその莊子注」、『中国古典の解釈と分析』、佐藤鍊太郎編、北海道大学出版会、pp.337-365、2012 年 3 月

三浦秀一「張自烈撰《四書大全辨》与明末清初的士風」、『哲学与宗教』第 6 輯、上海師範大学国際儒学院、pp.198-218、2012 年 5 月

三浦秀一「王門欧陽徳とその会試程文」、『哲学資源としての中国思想』、吉田公平教授退休記念論集刊行会編、研文出版、pp.116-138、2013 年 3 月

三浦秀一「担任郷試考官的進士教職」、『科挙文献整理与研究』、陳文新・余来明主編、武漢大学出版社、pp.169-176、2013 年 4 月

三浦秀一「明代中期の「性理大全」－東北大学図書館蔵本の書誌学的意義に寄せて－」、『集刊東洋学』第 109 号、中国文史哲研究会、pp.63-75、2013 年 6 月

三浦秀一「試論万曆人士的「真假」觀」、『明清之際的精神和思想世界国際學術研

- 討会』論文集、北京大学高等人文研究院編、pp.294-315、2013年8月
- 三浦秀一「人法兼任の微意—明代中後期の科挙および督学制度と思想史」、『学問のかたち—もう一つの中国思想史』、小南一郎編、汲古書院、pp.223-265、2014年8月
- 三浦秀一「明朝の提学官王宗沐と王門の高弟たち」、『日本中国学会報』第66集、日本中国学会、pp.143-157、2014年10月
- 三浦秀一「湛若水「二業合一」論とその思想史的位置」、『集刊東洋学』第112号、pp.62-81、2015年1月
- 三浦秀一「明末清初時期《性理大全書》的伝播与接受」、『貴陽学院学報』（社会科学版）総第43期、pp.30-37、2015年1月
- 齋藤智寛「禅宗と仏舎利信仰—『宝林伝』摩拏羅章に見える阿育王塔説話を手掛かりとして—」、『集刊東洋学』第104号、中国文史哲研究会、pp.41-60、2010年10月
- 齋藤智寛「荷沢神会の見性論とその変容」、『三教交渉論叢統編』、麥谷邦夫編、道氣社、pp.193-217、2011年3月
- 齋藤智寛「無臺明鏡照心地：《六祖壇經》的偈頌及其心性論」、『仏教文献与文学』、仏光文化事業有限公司、pp.60-91、2011年10月
- 齋藤智寛「法相宗の禅宗批判と真諦三蔵—敦煌文書スタイン二五四六『妙法蓮華經玄贊鈔（擬）』と『真諦沙門行記』—」、『真諦三蔵研究論集』、京都大学人文科学研究所編、pp.303-344、2012年3月
- 齋藤智寛「仏法の埋没—夾山善会—門の宗風と法統意識—」、『集刊東洋学』第107号、中国文史哲研究会、pp.48-67、2012年6月
- 齋藤智寛「所謂“見仏性”—唐代禅宗的实践」、『東亜仏教研究IV—仏教制度与实践』、方立天・末木文美士主編、宗教文化出版社、pp.195-219頁、2014年3月
- 齋藤智寛「『楞伽師資記』考—『楞伽經』と『文殊般若經』の受容を手がかりに—」、『集刊東洋学』第111号、中国文史哲研究会、pp.1-20、2014年7月
- 齋藤智寛「広州光孝寺六祖慧能碑と『六祖壇經』—空間化されるテキスト—」、『空間史学叢書2 装飾の地層』、空間史学研究会編、岩田書院、pp.143-174、2015年3月
- 高橋睦美「唐玄宗『道德真經』御注・御疏に見える「沖氣」と「沖用」について」、『集刊東洋学』第111号、中国文史哲研究会、pp.61-80、2014年7月

## 1-2 著書・編著

齋藤智寛、大野晃嗣、陳青、渡辺健哉共編『東北大学附属図書館所蔵「中国金石文拓本集」附：関連資料』、私家版、2013年

## 1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

三浦秀一「閲蔵知津」等、『中国文化史大事典』、大修館書店、2013年

三浦秀一「許衡」等、『岩波 世界人名大辞典』、岩波書店、2013年

齋藤智寛「石碑拓本の世界」、『東北大学広報誌 まなびの杜』、第55号、裏表紙、2011年

齋藤智寛『生活禅のすすめ』第15～20章、山喜房仏書林、pp.305-412、2012年（浄慧『生活禅鑰』生活読書新知三聯書店、2008年、の一部和訳）

齋藤智寛（『世説新語』劉孝標注研究会）「汪藻「世説叙録」訳注稿」、『東北大学中国語学文学論集』第18号、東北大学中国文学研究会、pp.85-104、2013年

齋藤智寛「中国唐代における広東一地域イメージの多面性について―」、『「地域」再考―復興の可能性を求めて―』、東北大学出版会、pp.101-133、2014年

齋藤智寛「第四部会「高僧伝・続高僧伝」総評」、『国際シンポジウム報告書2014 東アジア仏教写本研究』、国際仏教学大学院大学日本古写経研究所、pp.265-270、2015年

高橋睦美、書評山田俊著『宋代道家思想史研究』、『集刊東洋学』第109号、中国文史哲研究会、pp.98-112、2013年

## 1-4 口頭発表

[国際学会]

三浦秀一「明代中期の郷試考官と「副榜举人」」、応用史学研究会第7回研究集会、2010年9月24日（東北大学文学研究科）

三浦秀一「郷試考官としての林光と王守仁」、応用史学研究会第8回研究集会、2010年9月25日（東北大学文学研究科）

三浦秀一「郷試考官林光与明代中期的副榜合格者」、科举与科举文献学国際学術研討会、2010年12月19日（中国寧波市・寧波大酒店）

三浦秀一「担任郷試考官的「進士教職」」、第八届科举与科举学国際学術研討会、2011年9月25日（中国武漢市・武漢大学）

- 三浦秀一「王門歐陽德的學問及其會試程文」、國際陽明學研討會、2011年10月31日（中國余姚市・余姚賓館）
- 三浦秀一「湛甘泉的二業合一論及其影響」、書院文化的傳承與開拓、2011年11月5日（中國湖南省・湖南大學岳麓書院）
- 三浦秀一「性理大全書受容史研究—その序説と三つの断章」、応用科挙史学研究會第11回研究集會、2012年9月18日（東北大學文學研究科）
- 三浦秀一「明末清初時期《性理大全書》的傳播與接受」、清代理學國際研討會、2012年10月30日（シンガポール・国立シンガポール大學）
- 三浦秀一「試論万曆人士的“真假”觀—以文人屠隆的精神生活為例—」、「明清之際的精神與思想世界」國際學術研討會、2013年8月25日（中國河南省・嵩陽書院）
- 三浦秀一「《性理大全書》的傳佈和接受」、「明末清初思想史再探」研究計畫會議、2013年12月7日（台灣台北市・中央研究院近代史研究所）、
- 三浦秀一「湛甘泉的二業合一論及其影響」、「理學與嶺南社會文化」國際學術研討會、2014年6月27日（中國佛山市・中山大學嶺南文化研究院）
- 三浦秀一「『新刊性理大全』的出現及其時代背景」、「明末清初學術思想史再探」第二次工作會議、2014年10月25日（中國武夷山市・武夷學院）
- 三浦秀一「提學官王宗沐的思想活動與王門高弟」、第三屆國際陽明學研討會、2014年10月31日（中國余姚市・余姚賓館）
- 三浦秀一「外簾的干預：明代中期各省鄉試與思想史」、第十一屆科挙制與科挙學國際學術研討會、2014年11月14日（中國廣州市・廣州假日飯店）
- 齋藤智寬「仏性を見るということ—唐代禪宗の實踐」、第四屆中日仏學會議、2010年10月24日（中國北京市・中國人民大學）
- 齋藤智寬「假託於玄奘的偽經《大辯邪正經》初探：兼論其與禪宗思想的關係」、第四屆玄奘國際學術研討會、2011年10月4日（中國偃師市・偃師賓館）
- 齋藤智寬「《文殊説般若經》的傳播與禪思想」、中國中古仏教研究的新資料與新方法—寫本資源與石刻史料—、2014年7月20日（中國南京市・南京大學）
- 齋藤智寬「從北朝石刻與敦煌遺書來看《文殊説般若經》的傳播」、中國中古仏教研究的新資料與新方法—石刻史料與仏教研究—、2014年7月22日（中國西安市・富海明都大酒店）

[国内学会]

- 三浦秀一「明朝嘉靖期の科挙と王門欧陽徳の学問」、東北シナ学会 5 月例会、2011 年 5 月 14 日（東北大学文学研究科）
- 三浦秀一「郷試考官に招かれた「進士教職者」」、応用科挙史学研究会第 4 回ワークショップ、2011 年 8 月 4 日（東北大学文学研究科）
- 三浦秀一「程文の代作と「二業合一」論」、応用科挙史学研究会第 5 回ワークショップ、2011 年 8 月 11 日（東北大学文学研究科）
- 三浦秀一「古籍の帰還もしくは孝経の蒐集」、SENDAI 漢籍 SEMINAR「東北大学における漢学」、2012 年 3 月 9 日（東北大学萩ホール会議室）
- 三浦秀一「人法兼任の微意—明代中期後半の科挙と督学、および思想史」、第 62 回東北中国学会大会、2013 年 5 月 25 日（盛岡市・岩手大学）
- 三浦秀一「明朝の提学官王宗沐と王門の高弟たち」、東北シナ学会 4 月例会、2014 年 4 月 26 日（東北大学片平北門会館）
- 三浦秀一「明末清初の「性理大全」」、応用科挙史学研究会第 14 回研究集会、2015 年 3 月 18 日（東北大学文学研究科）
- 齋藤智寛「石頭一枝—夾山善会一門の思想と祖師の形象—」、第 82 回禅学研究会 学術大会、2011 年 11 月 26 日（京都市・花園大学）
- 齋藤智寛「光孝寺、南華寺の慧能関係碑文と『六祖壇経』—空間化されるテキスト—」、第 4 回空間史学研究会、2011 年 12 月 1 日（東北大学文学研究科）
- 齋藤智寛「ふみといしぶみの六祖慧能—常盤大定旧蔵拓本コレクションを中心として—」、SENDAI 漢籍 SEMINAR「東北大学における漢学」、2012 年 3 月 9 日（東北大学萩ホール会議室）
- 齋藤智寛「『楞伽師資記』の禅法」、第 65 回日本中国学会大会、2013 年 10 月 12 日（秋田市・秋田大学）
- 齋藤智寛「『楞伽師資記』に見える実践と思想」、第 64 回仏教史学会学術大会、2013 年 11 月 16 日（京都市・竜谷大学）
- 齋藤智寛「六祖慧能関連資料における経典利用について—『大辯邪正経』と『六祖壇経』—」、研究班「古典解釈の東アジア的展開—宗教文献を中心課題として」、2014 年 6 月 21 日（京都市・京都大学人文科学研究所）
- 高橋睦美「唐玄宗御注における「沖和」」、第 171 回中哲読書会、2012 年 7 月 21 日（東北大学文学研究科）
- 高橋睦美「六朝期における道の体得と身体観」、第 65 回日本中国学会大会、2013 年 10 月 13 日（秋田市・秋田大学）

高橋睦美「『唐玄宗御注道德真経』および『唐玄宗御製道德真経疏』の思想について」、第176回中哲読書会、2013年12月19日（東北大学文学研究科）  
高橋睦美「『唐玄宗御注道德真経』の思想的特徴について」、道教文化研究会2013年12月例会、2013年12月21日（東京都渋谷区・国学院大学）  
高橋睦美「『唐玄宗御注道德真経』と『唐玄宗御製道德真経疏』の思想的異同について」、第63回東北中国学会大会、2014年5月25日（福島市・吉川屋）  
高橋睦美「唐玄宗御注・御疏における「重玄」要素」、第178回中哲読書会、2014年9月26日（東北大学文学研究科）

## 2 教員の受賞歴

なし

## IV 教員による競争的資金獲得（2010～2015年度）

### （1）科学研究費補助金

2010年度：

三浦秀一「科挙文献による明代中国の思想史と社会史」（研究代表者、380万円（直接経費））

齋藤智寛「『世説新語』劉孝標注の漢魏六朝文献に関する総合的研究」（代表・佐竹保子、補助金総額320万円（直接経費））研究分担者

2011年度：

三浦秀一「科挙文献による明代中国の思想史と社会史」（研究代表者、480万円（直接経費））

齋藤智寛「『壇経』の再発見写本を中心とした六祖慧能関係資料の文献学的思想史的再検討」（研究代表者、220万円（直接経費））

齋藤智寛「『世説新語』劉孝標注の漢魏六朝文献に関する総合的研究」（代表・佐竹保子、補助金総額130万円（直接経費））研究分担者

2012年度：

三浦秀一「科挙文献による明代中国の思想史と社会史」（研究代表者、390万円（直接経費））

齋藤智寛「『壇経』の再発見写本を中心とした六祖慧能関係資料の文献学的思想史的再検討」（研究代表者、130万円（直接経費））

齋藤智寛「『世説新語』劉孝標注の漢魏六朝文献に関する総合的研究」（代表・佐竹保子、補助金総額120万円（直接経費））研究分担者

2013 年度：

齋藤智寛「『世説新語』劉孝標注の漢魏六朝文献に関する総合的研究」（代表・佐竹保子、補助金総額 110 万円（直接経費））研究分担者

2014 年度：

三浦秀一「性理大全書の思想史的研究」（研究代表者、90 万円（直接経費））  
高橋睦美「中国古代から中古に至るまでの身体観および生命観の変遷」（研究代表者、70 万円（直接経費））

2015 年度：

三浦秀一「性理大全書の思想史的研究」（研究代表者、100 万円（直接経費））  
三浦秀一「科挙と性理学」（研究成果公開促進費、120 万円）  
齋藤智寛「『歴代法宝記』を中心とした禅宗思想史と教団史の研究」（研究代表者、110 万円（直接経費））

## （2）その他

2010 年度：

齋藤智寛「東北大学附属図書館蔵常盤大定収集拓本の研究と公開」（東北大学文学研究科研究科長裁量経費、30 万円）

2012 年度：

齋藤智寛「東北大学附属図書館蔵「中国金石文拓本集」写真帳出版事業」（東北大学文学研究科研究科長裁量経費、30 万円）

2013 年度：

三浦秀一：台湾・蔣経国国際学術交流基金「国際合作研究計画」（代表・呂妙芬、補助金総額 200 万台湾ドル）研究分担者

2014 年度：

三浦秀一：台湾・蔣経国国際学術交流基金「国際合作研究計画」（代表・呂妙芬、補助金総額 200 万台湾ドル）研究分担者

2015 年度：

三浦秀一：台湾・蔣経国国際学術交流基金「国際合作研究計画」（代表・呂妙芬、補助金総額 200 万台湾ドル）研究分担者

## V 教員による社会貢献（2010 年度～2015 年 5 年 20 日）

三浦秀一：東北大学オープンキャンパス文学部公開講義、2012 年 8 月 31 日、東北

大学川内北キャンパス

三浦秀一：東北大学進学説明会 in 札幌、2013年6月16日、さっぽろ芸術文化の館

三浦秀一：東北大学「学部学科ガイダンス」、2013年6月20日、秋田県立秋田南高等学校

三浦秀一：東北大学オープンキャンパス文学部紹介、2013年7月30日、東北大学萩ホール

三浦秀一：東北大学進学説明会 in 札幌、2014年6月15日、さっぽろ芸術文化の館

三浦秀一：東北大学進学説明会 in 東京、2014年7月21日、学術総合センター

三浦秀一：東北大学オープンキャンパス文学部紹介、2014年7月30日、東北大学萩ホール

齋藤智寛：東北大学大学院文学研究科市民のための公開講座「第5期・齋理蔵の講座」講演、2012年8月4日、丸森まちづくりセンター

齋藤智寛：みやぎ県民大学「人間理解の方法論」講演、2012年10月6日、東北大学

高橋睦美：東北学院大学「新時代における日中韓周縁域社会の宗教文化構造研究プロジェクト」公開講演会講演、2012年7月14日、東北学院大学

## VI 教員による学会役員等の引き受け状況（2010～2015年度）

三浦秀一：

中国文史哲研究会（常任編集顧問）

東北中国学会（幹事）

日本中国学会（評議員・将来計画検討委員会委員）

日本道教学会（理事）

東方学会（2011年度から学術委員）

齋藤智寛：

中国文史哲研究会（常任編集顧問）

東北中国学会（2014年度から幹事）

空間史学研究会（2013年度まで運営・編集委員）

## VII 教員の教育活動

### （1）学内授業担当（2015年度）

## 1 大学院授業担当

三浦秀一：

- 1 学期：中国思想中国哲学特論Ⅰ（明代中期思想研究）  
：中国思想中国哲学研究演習Ⅲ（中国思想研究上の諸問題1）
- 2 学期：中国思想中国哲学研究演習Ⅱ（王夫之思想研究）  
：中国思想中国哲学研究演習Ⅳ（中国思想研究上の諸問題2）

齋藤智寛：

- 2 学期：中国思想中国哲学特論Ⅱ（唐代仏教思想研究の諸問題）  
：中国思想中国哲学研究演習Ⅳ（中国思想研究上の諸問題2）

高橋睦美（非常勤講師・文学研究科専門研究員）

- 1 学期：中国思想中国哲学研究演習Ⅰ（漢代易緯研究）

有馬拓也（非常勤講師・広島大学）：

- 集中講義：中国思想中国哲学特論Ⅱ（淮南王劉安とその著作）

## 2 学部授業担当

三浦秀一：

- 3 セメ：中国思想概論（宋代思想史概説）  
：中国思想基礎講読（中国思想文献講読・初級1）
- 4 セメ：中国思想基礎講読（中国思想文献講読・初級2）
- 5 セメ：中国思想各論（明代中期の思想情況）
- 6 セメ：中国思想演習（王夫之「周易内伝発例」精読）

齋藤智寛：

- 4 セメ：中国思想概論（魏晋南北朝思想史概説）
- 6 セメ：中国思想各論（唐代仏教思想の諸問題）  
：中国思想演習（中国古代中世思想資料選読）

高橋睦美（非常勤講師・文学研究科専門研究員）：

- 5 セメ：中国思想演習（漢代思想文献読解）

有馬拓也（非常勤講師・広島大学）：

- 集中講義：中国思想各論（淮南王劉安とその著作）

## 3 共通科目・全学科目授業担当

三浦秀一：

- 1 セメ：人文社会総論（4月24日）：

**(2) 他大学への出講 (2010～2015 年度)**

三浦秀一：

2010 年度 (九州大学)

2015 年度 (東京大学)